

# — 西区から全国へ発信 —

## メイドイン MADE IN 西区

平成18年工業統計調査によると、西区の製造品出荷額は年間で1,666億円。これは全区の中で最も多く、札幌市全体（5,098億円）の約3分の1を占めています。

今月は、西区で開発・製造され、市内はもとより全道、全国へと出荷されている特色ある製品と、これらを作り出している企業をご紹介します。

意外と皆さんの身近なところにも、メイドイン西区があるかもしれません。

### 三愛パック(株)

環境に優しい自然素材を使った包装容器

包装容器資材の開発・製造・販売を行っている三愛パック株式会社。同社では、リサイクル可能な自然の素材を使用した地球環境に優しい包装容器の開発に力を入れています。

発泡スチロールに替わる紙製の包装容器を開発

同社の坂本和比路社長が、海で大量の発泡スチロールの残骸を見てショックを受け、それに替わる環境に優しい包装容器ができないかと、試行錯誤を繰り返して開発したのが紙製の「保冷ケース」です。



▲すべてリサイクル可能な紙素材でできた「保冷ケース」

リサイクル可能な紙素材で高い保冷効果を実現

最大の特長は、容器のすべてが紙でできているため、リサイクル資源として再利用することが可能なことです。また、肝心の機能面においても北海道立工業試験場での保冷試験の結果、十五時間以内であれば発泡スチロールよりも保冷効果が高いことが証明されています。

もう一つの大きな特長として、発泡スチロールと違い、表面に自由なデザインを直接印刷できることが挙げられます。例えば北海道産の野菜や果物を包装する際に、産地や中身が分かりやすい図柄などを印刷することができ、これらを扱う企業や団体からも好評だそうです。

この紙製の「保冷ケース」は、平成十四年から日本赤十字社の血液製剤の輸送容器としても採用されており、北海道から全国へ血液製剤を送る際に使用されています。

消費者の声や現場からの要望を生かした製品づくり

同社では、「保冷ケース」のほかにも、さまざまな包装容器を開発しています。例えば、新巻きザケを発送する際に、受け取った先で簡単に調理ができるよう「簡易な板」が付き、さらにおろし方の説明が印刷された「鮭一本ケース」や、酸化に強いバターロール紙を使った「イクラ・たらこケース」などがあります。

どの製品も、消費者の声や使用する現場からの要望を聞き、使う人の視点に立った製品開発によって生み出されたものばかりです。

札幌から全国に向けて環境にやさしい製品を発信したい

同社の沼田浩一専務は「今後も自然素材にこだわった製品開発に積極的に取り組み、環境に優しい製品を札幌から全国へ発信していきたい」と抱負を語ってくれました。

### ここがポイント!



▲「保冷ケース」の構造。二重になった部分に空気層ができて保冷効果を保ちます。

「保冷ケース」は、箱の構造を二重にすることで空気層を作り、さらにふたの裏面に紙製の緩衝材を張り付けて密着度を高めることなどで、保冷効果を保っています。これらの構造には、七つの特許が認められているほか、「平成十五年北海道新技術・新製品開発賞」の奨励賞も受賞しています。